

科目	保健	学年	第2学年	開講	通年	必修	1単位
----	----	----	------	----	----	----	-----

教科書:「新高等保健体育」大修館書店

副教材:「新高等保健体育ノート」大修館書店

1.学習の到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2.学習計画及び評価方法

- 知識技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に学習に取り組む態度

学期	項目	単元	学習内容	学習のねらい	月	考查	評価の観点		
							a	b	c
前期	保健編	生涯を通じる健康	1.思春期と健康	思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。思春期に起こりやすい健康課題について理解する。	4	期末	○	○	○
			2.性意識と性行動の選択	自分の行動への責任感や異性の理解と尊重の必要性について理解する。性行動の選択には性情報への適切な対処が必要であることを理解する。			○	○	○
			3.結婚生活と健康	結婚生活と健康との関係について理解する。結婚生活における夫婦関係、親子関係による健康への影響について理解する。	5		○	○	○
			4.妊娠・出産と健康	受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。妊娠、出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。			○	○	○
			5.家族計画	家族計画の意義について理解する。人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解する。	6		○	○	○
			6.加齢と健康	加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。			○	○	○
			7.高齢社会に対応した取り組み	高齢社会における健康課題について理解する。高齢者の暮らしや健康を支えるために必要な社会の取り組みについて理解する。			○	○	○
							8.働くことと健康	働くことの意義と働き方の多様化について理解する。働く人における健康問題について理解する。	7
前期 授業評価							○	○	○
後期	保健編	生涯を通じる健康	9.労働災害の防止	労働環境の変化に伴い、労働災害の要因も変化していることを理解する。労働災害を防止するための様々な取り組みについて理解する。	9	期末	○	○	○
			10.働く人の健康づくり	職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動について理解する。働く人の健康には余暇の生活など生活の質の向上も重要であることを理解する。			○	○	○
		健康を支える環境づくり	1.大気汚染と健康	大気汚染による健康への影響について理解する。地球規模で起きている大気環境の問題について理解する。	10		○	○	○
			2.水質汚濁・土壌汚染と健康	水質汚濁による健康への影響について理解する。土壌汚染による健康への影響について理解する。			○	○	○
			3.健康被害を防ぐための環境対策	環境汚染による健康への影響を防ぐために行われている対策について理解する。産業廃棄物の処理や新たな環境汚染の課題について理解する。	11		○	○	○
			4.環境衛生に関わる活動	安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題について理解する。生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解する。			○	○	○
			5.食品の安全性と健康	食品の安全性が損なわれると健康被害が生じる可能性があることを理解する。人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。	12		○	○	○
			6.食品の安全性を確保する取り組み	食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割について理解する。食品による健康被害を防ぐために私たち消費者が果たす役割について理解する。			○	○	○
			7.保健制度とその活用	保健行政の役割について理解する。健康の保持・増進には保健サービスの適切な活用が必要であることを理解する。	1		○	○	○
			8.医療制度とその活用	医療保険の仕組みについて理解する。医療サービスの適切な活用方法について理解する。			○	○	○
9.医薬品の制度とその活用	医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。医薬品は、使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解する。	2	○	○	○				
10.様々な保健活動や対策	日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることを理解する。国際機関や民間機関などにより行われている様々な保健活動や対策について理解する。		○	○	○				
後期 授業評価							○	○	○

3.評価の観点

保健的な概念を理解し、論理的な知識の習得とその能力を身に付けることができたか評価する。定期試験を素点とし、課題提出物の内容、授業の取り組み、出席状況等から総合的に評価する。